

区内宗教者団体が募金活動

12日、JR阿佐ヶ谷駅周辺では、区内の宗教者団体が協力して、東日本大震災で被災された方々を支援するため、募金活動を行いました。また、福島県南相馬市、宮城県石巻市の特産品も販売しました。募金は、杉並区の交流自治体である福島県南相馬市に寄贈され、震災からの復興に役立てられます。

杉並区宗教者懇話会は、昭和62(1987)年に区内の各派宗教者間の交流を通じて相互理解と地域発展に貢献することを目的に発足し、現在、区内の50ほどの宗教団体が参加しています。東日本大震災の支援活動は、平成23年11月に第1回を実施し、今回が8回目となります。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から8年が経過しましたが、福島県・宮城県など被災地は復興の道半ばです。全国からの支援もあり、一步一步復興へ向けた歩みは進んでいるものの、震災前のような若者世代が将来の夢を描けるような産業や水産加工業・観光の再生などには、まだまだ全国からの支援を必要としています。

こうした被災地の状況の中、杉並区宗教者懇話会のメンバーによる街頭募金活動が行われました。12日午前10時30分、区内の14の宗教団体から約100人が、阿佐ヶ谷駅周辺で東日本大震災の被災地支援の募金を呼びかけました。

また、駅南口広場で同時に開催された物産展には、福島県南相馬市の「よつわりパン」や宮城県石巻市の牛タン焼きなどの特産品、そして区内の宗教団体が準備した甘酒などが並べられました。特に、南相馬市民から50年間愛され続ける「よつわりパン」は、丸いコッペパンに上から十字に切り込み、生クリームと粒あんがたっぷり挟まれたもので、これを目当てにした多くの買い物客などで賑わっていました。



【問い合わせ先】

危機管理室防災課 電話 3312-2111 (内線3601)